



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 318 Juni 2017

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

NPO 法人神戸日独協会 2017年度総会報告

会長 柘田 義一

2017年度総会が5月28日(日)にユーハイム神戸元町本店ホールにて開催されました。会長の開会挨拶の後、議事に移り、各議題の報告・審議が行われ、すべての議題が了承され、総会は終了しました。

総会后直ちに新たに承認された理事会が同ホールにて開催されて、理事の互選により理事の職務担当が決まりましたので、ご報告します。

会長：柘田義一理事、副会長：尾辺和也理事

常任理事：Stefan Trummer=Fukada 理事、松田耕治理事

これまで慣例として会長は総会にて会員の推薦を受け総会にて決定していました。しかし神戸日独協会「定款」によれば、「会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事の互選とする」(第14条第2項)とあり、NPO法人の監督官庁である神戸市から「会長の選出は定款に従うように」との指導を受けてきました。2016年度の理事会では、2017年度以降の会長選出は旧例を排して、「定款に従う」ことを決めました。総会にて会長選出方法の変更の経緯を説明し、総会後の理事会にて上記の職務を決定しました。

総会后、同ホールにて懇親会が行われました。懇親会は旧知の会員同士近況報告などをされ、ユーハイムさんのお料理とデザートを賞味しながら、皆さん終始和やかに談笑されておられました。会員の懇親を深める良い機会になったと思います。

最近総会及び懇親会の参加者が減少しています。また本年の総会へのご出欠のお返事も極めて少ない状態でした。この数年の総会で不愉快な思いをされた会員も多くいらっしゃる事への責任を痛感しています。正会員と準会員との間の議決権の有無にかかわらず、この法人の最高意思決定機関である総会に来年度は是非ともご参加いただきたく、お願い申し上げます。

2017年度通常総会と会員懇親会を終えて

会員 清水 裕子

2017年5月28日に2017年度通常総会が開催され、その後会員懇親会が開かれました。当日は日曜日という事もあって例年に比べて参加者が少ないように見受けられましたが、皆さん熱心に2016年度の事業報告や決算報告・2017年度の事業計画や予算案について資料を見られたり報告を聞いていらっしゃいました。特に今年は「神戸開港150年」の年に当たり、当協会でも3月に「神戸開港150年」記念特別講演会を開催したところ多くの参加者があり、皆さんの関心の深さに驚かされました。また、ルターの宗教改革から500年の年でもあるので、パネル展や記念講演など、今年も楽しみな行事が続くと思います。

総会後の会員懇親会では、会場のユーハイム神戸本町本店ホール様の御協力でとても美味しいお料理を頂く事が出来ました。ワインにも皆さん大満足だったようで、あちらこちらのテーブルでほんのり赤くて楽しそうなお顔に遭遇する事が出来ました。

家庭的な雰囲気から生まれる会員の結束力やアイデアの良さで、これからもいろいろな行事が開催されるのがとても楽しみで、是非参加して行きたいと思います。

日独若者の「神戸再発見」

Gemeinsam Kobe neu entdecken

第40回 神戸メリケンパーク散策に参加して

会員 北川 玉恵

5月最後の土曜日、初夏のように晴れわたった暑さの中、「メリケンパーク散策」に参加してきました。

神戸生まれで神戸育ちの私にとって神戸再発見は自分のちょっとした歴史を振り返るようで近すぎて見えていないものの再発見の散策となりました。

まずは、港町神戸のランドマークタワー「神戸ポートタワー」に上ってみました。

和楽器の鼓を長くしたような美しい外観の赤い建物は港を360°見渡せて「展望5階層」と「地上3階層」に分かれエレベーターと、らせん階段を使って最上階にも上がれます。5階へ上がって山側の景気を見ると六甲山の鮮やかな新緑に目を奪われてしまいました。港を一望できる景色の下ではガーデンチャペルや神戸海洋博物館の屋上で結婚式が行われているのが見えます。ポートタワーからなので小さく見えますが、確かに大勢の列席者の前で新郎・新婦が立っているのが見えて、海と山に囲まれた神戸は実に結婚式が絵になる街ですね。十数年前に神戸の教会で挙式した自分の結婚식을ちょっと思い出していました。このポートタワーは1963年に建設され4年前の2013年にめでたく開業50周年を迎えて現在に至っています。

そしてポートタワーから歩いてすぐのところに、神戸海洋博物館とカワサキワールドに入りました。

カワサキワールドは100年を超える歴史ある川崎重工グループの企業ミュージアムです。入り口から帆船の模型に圧倒されました。パイレーツオブカリビアンのような(海賊船!)りっぱな船に出迎えられて、船の歴史が学べるコーナーでしばらく展示物を眺めると奥には、世界に誇るカワサキのバイクが沢山、年代別に展示されていました。また、0系新幹線やバイクに触れたり乗れたり体験が出来ると楽しいミュージアムでした。私は懐かしい「こだま」の新幹線に乗ってみたり、大きなバイクにまたがって写真も取っていただきました。

ひととおり見学したあとメリケンパークから旧居留地あたりを散歩して、参加された会員の方々とおしゃべりをしながら休憩が出来ると探していたらコーヒーの香りがする 神戸旧居留地ビルまで来ていました。さっそく地下にある「旧居留地珈琲庵」というコーヒー豆にこだわりがありそうなお店に入って休憩することになりました。神戸はコーヒーの美味しいお店がたくさんあります。店主のコーヒー豆に対する情熱が感じられるお店でした。お店のショップカードには「ブルーマウンテンに、魅せられて」書かれていました。会員の皆様と美味しいアイスコーヒーとケーキを頂きながら楽しい歓談の時間をすごして、あらためて神戸の街に住む幸せを感じていました。

神戸の良さを日独協会の活動を通じて広くお知らせすることが出来たらいいなと思いながら帰途につきました。参加して頂きました皆様ありがとうございました。また次回も「神戸再発見」に参加していきたいです。

第 41 回. 明石海峡大橋を見晴らす舞子公園と五色塚古墳

41. Treffen: Maiko Park und Goshikizuka-kohun mit Aussicht auf die Akashi-Kaikyō-Brücke

2017年6月17日(土) / 17.6.2017 (Samstag) 13.30-17.00

世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」を、舞子公園と五色塚古墳から眺めませんか？「舞子公園」がある舞子浜は古くから交通の要衝であり、また浮世絵にも描かれた景勝の地。五色塚古墳は兵庫県最大の古墳で、ここからの明石海峡大橋の眺めも壮観です。

Die Akashi-Kaikyō-Brücke ist die längste Hängebrücke der Welt. Seit alters her bildete diese Stelle am Strand von Maiko einen wichtigen Verkehrsknotenpunkt. Die schöne Aussicht dort wurde überdies zum Motiv von Ukiyoe-Bildern. Diesmal laden wir zu einem Ausflug zum Maiko-Park und dem Goshikizuka-kofun ein. Das Goshikizuka-kofun ist die größte historische Grabstätte von Hyogo, sie stammt von der Wende des 4. zum 5. Jahrhundert. Von dort hat man einen schönen Ausblick auf die Umgebung und die Hängebrücke.

13.30 舞子海上プロムナード入口集合、舞子公園散策／Treffpunkt: Vor dem Maikokaijopromnado und Spaziergang durch den Park.

舞子海上プロムナード見学／Besichtigung der Maikokaijo-Promenade.

(大人300円、高校生以下 無料／Eintritt für Erwachsene 300 Yen. Unter 18 Jahren ist der Eintritt frei.)

舞子プロムナードの海面からの高さ約47mから眺める明石海峡は大迫力。淡路島、大阪湾、瀬戸内海を一望、海からの「神戸」の景色も人気です。

Von der Maikokaijo-Promenade aus hat man auf einer Höhe von etwa 47m einen schönen Ausblick auf das Seto- Binnenmeer, die Hängebrücke, die Insel Awaji, Kobe und die Bucht von Osaka. <http://hyogo-maikopark.jp/facility/f01/#ad-image-3>

14.00-15.00 自由散策／

明石海峡大橋を眺め、約1,800本の松林「舞子公園松林」を散策します。孫文記念館、数寄屋造の近代和風住宅などを見学することができます。(別途入場料が必要ですが共通入場券あり)

Spaziergang durch den Park und seinen Kiefernwald mit etwa 1800 Bäumen. Ebenso können die Sun Yat-sen Memorial Hall und ein Wohnhaus im Sukiya-Stil besichtigt werden. (Extra Eintrittsgeld erforderlich.)

15.00 五色塚古墳へ徒歩移動／ Fußweg zum Goshikizuka-kofun

15.30 五色塚古墳に集合、見学

古代日本の土木技術と一緒に体感しましょう。古代衣装の貸出あり。(子ども用あり)無料です。Bei der Führung durch das Goshikizuka-kofun kann man einen Einblick in die historischen Bautechniken Japans gewinnen. Es werden dort auch gratis historische Kostüme verliehen.

<https://goo.gl/maps/FqznCmi5J8k>

17:00 解散／Ende des Ausflugs

<お申し込み>

6月14日(水)までに神戸日独協会事務室へ、当日の連絡がつくご連絡先およびご参加の場所をお知らせください。(①舞子公園／②五色塚古墳、または①②両方)

Anmeldung bis zum 14. Juni bei der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe.

Teilen Sie uns bitte mit, ob Sie nur den ①Maiko Park, nur das ②Goshikizuka-kofun oder beide ①② besichtigen wollen. Um am Treffpunkt zueinanderzufinden, würden wir Sie auch gern um Bekanntgabe Ihrer Handynummer bitten.

TEL/FAX 078-230-8150(平日12:00-18:00) info@jdg-kobe.org

※当日は軽装で日除けの準備をしてご参加ください。

※Für die Wege in der Natur geeignete Kleidung und Sonnenschutz erforderlich.

第42回 ドイツ人研修生との交流会／

42. Treffen: Umgang mit einer deutschen Praktikantin

現在大阪ドイツ文化センターで研修をしている Caterina Berger さんに現在のドイツトレンドについてお話をしていただき、懇談をします。多くの参加をお待ちしています。

Zuerst hält deutsche Praktikantin einen kleinen Vortrag über den aktuellen Trend in Deutschland von heute, dann wollen wir uns zusammen auch über den in Japan

unterhalten.

■テーマ/Thema: ドイツのアクチュアルなトレンド/

Der aktuelle Trend in Deutschland von heute

■講師/Redenerin: Caterina Berger (ミュンヘン大学大学院生)

■日時/Zeit: 2017年6月25日(日)14:00~15:30/ 14:00-15:30 Sonntag 25. 6. 2017

■場所/Ort: 神戸日独協会会議室/ Konferenzraum der JDG Kobe

■定員/Teilnehmerzahl: 20名/20 Personen

■費用 /Kosten: 無料 / kostenfrei.

■申込/Anmeldung: 2017年6月21日(水)まで/bis Mittwoch 21. 6. 2017

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

神戸日独協会 ドイツワインの会

第5回「目でも楽しむワイン」/Nr.5 Aussehen

神戸日独協会では、“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”をコンセプトに、日ごろ曖昧にしがちなワインの「いろは」を振り返り、試飲をしながらドイツとその食文化への理解を深める「ドイツワインの会」を開催しています。

第5回目のテーマは「目でも楽しむワイン」。講師の松田耕治氏より、ゼクト(スパークリング)や白、ロゼ、ブランド・ノール(赤葡萄を使用した白仕上げ)、古いワインなどを「目でも楽しむ」話題に触れながら解説いただき、試飲を行います。美味しいドイツワインで、夏をもっと楽しみましょう！初参加でも大丈夫です。

日時/Zeit: 2017年7月8日(土曜日)/Samstag 8 Juli 2017 14:00-16:00

場所/Ort: 神戸日独協会会議室 /JDG Kobe

定員/Teilnehmerzahl: 20名(先着)/ bis 20 Personen

※定員を超えた場合はキャンセル待ち

費用 /Kosten: 2,000円/2,000 Yen (会員: 1,800円/Mitglied 1,800 Yen)

※締め切り日以後にキャンセルされた場合、後日料金を請求いたします。

ご了承ください。(締め切り日の申込者数でワインを発注するため。)

申込/Anmeldung: 2017年7月3日(月曜日)まで/Bis Montag 3. Juli 2017

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

※初参加の方は、お申し込み時にお知らせください。(テキスト準備のため。)

<次回予告>

第6回 9月10日(日)「ワインのヴィンテージ」(年代、等級別比較試飲)

ドイツ語談話室

第162回ドイツ語談話室

日時：2017年5月20日(土) 14時-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：福島原発問題の今後

今回の司会は原田耕作氏が担当し、原発で最も厄介な問題は使用済み核燃料の処分問題で、放射性物質の危険が数万年以上に及び、今生きている誰もがその責任を取れない事であると話した。にも拘らず現安倍政権は原発にまだ頼ろうとしている。

今回のテーマに関わる原子力発電の基本について、沸騰水型原子炉(東電・GE・東芝)と、加圧水型原子炉(関電・WH・三菱・日立)の違いを、松浦庸夫氏が図を描いて説明された。

次に参加者からの意見が出された。以下その一部を紹介する。

—日本の多くの原発は海岸沿いの過疎地に建設され、原発での仕事はその地域で唯一の仕事である。また原発立地自治体には、原発からの税収と多額の政府補助金が与えられ、その地域が原発に反対できない構造になっている。

—日本人とドイツ人では、原発の危険性に対する感じ方がまるで違う。ドイツ人から見ると、日本人は危機感がないかマヒしている。

—福島原発事故では、日本政府や東電は情報をできるだけ隠したので、外国、特にドイツのメディアは日本政府の言う事を信用しなかった。

—ドイツのメディアは、すぐさまに事故の情報を流して、危機意識も最初から強く持っていた。メルケル首相も直ちに原発廃止の方向性を決定した。

—中国では既に300を超える原発があり、今後も大変な勢いで原発建設を進めようとしている。

—日本政府の発表するKW当たりの原発による電気代の計算は、事故の対策や補償費用などを入れていないので、実際はもっと高くなり、代替エネルギーも競争できるはず。

—日本では、昨夏、原発稼働ゼロでも何の問題も起きなかった。国民が少しエネルギーの節約を心掛ければ、原発のような危険な電力は不要である。

—シベリアの水力発電は無尽蔵の能力があるので、日本はこれを安く輸入する事考えた方がよい。ロシアとも仲良くすることで平和も保てる。

—日本国民は、福島の災害を援助する為、消費税の上乗せをして支援に充てている。

—ドイツは原発を廃止する事に決めて、再生エネルギーの研究開発に本気で力を注いでいるので、そのうち日本の技術はドイツの技術レベルに追いつけなくなって、大変なハンディを負う事になるだろう。

—福島原発事故で、まだまだ故郷に帰れない人々がいるのに、多くの日本人はこの事故の事を忘れてしまっていて、平気で原発の再生を考えている。日本人は実に忘れっぽい民族である。

今後のドイツ語談話室の予定

第163回 2017年6月17日(土) 14-16時 テーマ：私の好きな木と植物

第164回 2017年7月15日(土) 14-16時 テーマ：私の好きな音楽

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 162. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 20. Mai 2017, 14 bis 16 Uhr

Thema: Das Problem Fukushima

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und erklärte, dass das größte Problem von Atomkraftwerken der Atommüll ist. Das Risiko der Radioaktivität dauert zehntausend Jahre. Niemand kann für das Risiko zur Verantwortung gezogen werden. Trotz dieses Risikos will die Regierung Abe mehrere Atomkraftwerke erhalten. Herr Tsuneo Matsuura erklärte mit Illustrationen auf der Tafel den fundamentalen Unterschied zwischen „Siedewasser-Reaktoren“ (TEPCO -GE-Toshiba) und „Druckwasser-Reaktoren“ (KEPCO - WH -MHI-Hitachi).

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

- Ein Teilnehmer erwähnte, dass die meisten AKW in Japan an den Küsten liegen, wo die Bevölkerungszahl nicht hoch ist, wo es aber auch kaum Arbeit gibt. Eine Anstellung beim AKW ist deshalb oft die einzige Arbeit, die man finden kann. Diese Gegenden bekommen auch große Mengen an Subventionen von der Regierung und verfügen über hohe Steuereinnahmen durch die Kraftwerke. Diese Strukturen führen dazu, dass die Bevölkerung kaum Einwände gegen die Kraftwerke vorbringen kann.
- Eine Teilnehmerin findet, dass das Bewusstsein gegenüber der Gefahr von Atomkraftwerken in Japan anders als in Deutschland ist. Von Deutschland aus gesehen, fehlt es Japan an Gefahrenbewusstsein.
- Eine andere Teilnehmerin erinnerte daran, dass TEPCO und die japanische Regierung bei der Katastrophe von Fukushima viele wichtige Informationen verschwiegen haben. Deshalb zeigten die ausländischen Medien, besonders auch die deutschen, Misstrauen gegenüber der japanischen Regierung.
- Eine weitere Teilnehmerin fügte hinzu, dass die deutschen Medien von Anfang an, nicht nur Krisenbewusstsein zeigten, die Bundeskanzlerin hat sich sofort für den Atomausstieg entschieden.
- Ein Teilnehmer erwähnte, dass China schon mehr als 300 Atomkraftwerke besitzt und noch weitere plant.
- Ein Teilnehmer sprach das Problem an, dass die japanische Regierung bei der Errechnung der Tarife für Atomstrom die Kosten für den Unfall und die Entschädigungen nicht mitrechnet. Die Tarife wären dann so hoch, dass erneuerbare Energie konkurrieren könnte.
- Ein Teilnehmer erinnerte daran, dass im letzten Sommer in Japan kein AKW in

Betrieb war, dass dies aber zu keinen Problemen führte. Wenn wir Energie sparen, brauchen wir kein gefährliches AKW in Japan.

-Ein anderer Teilnehmer vertritt die Meinung, dass man die unerschöpflichen Wasser in Sibirien mehr für Wasserkraftwerke nützen könnte. Ein solcher Strom wäre billig zu importieren, und damit könnten die Beziehungen mit Russland und friedliches Zusammenleben gefördert werden.

-Eine Teilnehmerin erwähnte, dass wir alle durch die Erhöhung der Mehrwertsteuer Fukushima mit unterstützen.

-Ein Teilnehmer merkte an, dass Deutschland die Atomkraft aufgegeben hat und jetzt mit volle Kraft erneuerbare Energie entwickelt. Die japanische Technologie kommt hier in einen großen Rückstand und wird deutsches Niveau nicht erreichen können.

-Eine andere Teilnehmerin erwähnte, dass viele Leute von Fukushima nicht in ihre Heimat zurückkehren können. Trotzdem haben viele Japaner diese Tatsache schon vergessen und sprechen sich für den Betrieb von Atomkraftwerken aus. Die Japaner sind ein sehr vergessliches Volk.

Nächste Treffen:

Samstag 17. Juni 2017, 14 bis 16 Uhr, Thema: Meine liebsten Pflanzen

Samstag 15. Juli 2017, 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Lieblingsmusikstück

リレーエッセイ「ドイツ語学習上達法」

第2回 ドイツ語上達法 「好きこそものの上手なれ」

会員 萩原 哲

ドイツ語上達法について執筆依頼があり、今回担当します萩原です。さて、私自身がなぜドイツ語を学ぶようになったのか、改めて考えてみました。私も含め大多数の会員の皆様も同様かと思うのですが、ドイツ語が母語の人は少なく、おそらく大多数の方が日本語を母語として、第二外国語或いは仕事で必要に迫られる等で学んだものと想像します。私の場合、約50年前に大学教養課程でドイツ語を学びました。(その後興味は持ちつつもドイツ語とは縁がなく、退職後やり直し。)その時点で他にも外国語があるのになぜドイツ語を選んだのか、そこにそもそもの原点があるのではないかと思います。

ドイツ語上達法、この50年余りを振り返って思い起こせば、次の4点になるのではないかと思います。①ドイツ語圏の様々なもの(歴史、風土、芸術等)が、他の言語の国より好きな事。②母語として学ぶのではないので理論として整理し、学習する。(文法は大事)③数をこなす。同じ教科書でもよいと思いますが。④目標を定めて努力する。そして、魅力ある先生との出会い。これに尽きるのではないかと思います。

① 私は、神戸の灘区で生まれ育ちましたが、小学生の頃から海には全く興味がなく、摩耶山、六甲山を裏庭のごとく這いずり回っており、その頃からヨーロッパアルプスに憧れ、カレンダーの写

真を壁に張ったりしていました。中学時代はリコーダーをやり、高校時代はブラスバンドに所属。その頃は、完全にモーツァルト、ベートーベンの世界にはまっていました。従って、第二外国語として、当然のごとく迷うことなくドイツ語を選択しました。また、19歳の時に初めてヘルマン・ヘッセの小説「車輪の下」を読み、いつか原文で読みたいと思っていました。

② 私達は、日本語を母語としており、不自由なく使いこなしていますが、幼少の時から浴びるほど聞き、小学生の時から様々な文章を読み、書き、聞き、そうして成人しました。(特に日本語特有の助詞の使い分けを不自由なく)しかし、成人してから学ぶ他国の言語は、触れる機会も母語のようにはいかず限定されます。すると言語を取りあえずは理論として理解、整理するのが大事ではないかと思います。(特に言語の基本構造を作る文法は大事ですし、ドイツ語は英語よりも理論的だと思います。)

③ 私は、この春3月に広島大学を卒業しましたが、昨年、夏休みに東京外大名誉教授の在間先生の集中講義がありました。在間先生曰く、「ドイツ語をマスターするには、ドイツ人と同じだけ聞き、話し、読み、書きすれば可能」と話されました。しかし、そのようなことは、日頃、日本で生活しているものにとっては不可能ですが、そこに込められている意味は、私達学生に対し、他の言語をマスターするには、努力が必要であることを力説されたものと理解しています。また、私自身の経験からも努力し、数をこなすうちに自ずと見えてくるものがあります。同じ教科書を何度もやり直す。辞書は重たくても紙のものを使用する。辞書は引くのではなく、読む。ドイツ語文法の作文問題集を、ぱっと日本語を見てドイツ語が出てくるように何度も練習しました。

④ 私が60歳を過ぎてから、広島大学で学ぼうとした動機にもつながることですが、人間は怠け者です。自らを拘束することで目標も達成される。ただだと学習していても時間が経つばかりで、時間をかけたことに自己満足しがちです。テストがあることも、自らの学習目標、達成度を測ることが出来ます。従って、それぞれ各人が置かれている、限られた許された時間という環境、状況から、何を目標として求めるのかにあると思います。私の場合、若い時のヘッセへの思いから、広島大学在学中にヘッセの小説を自らの力で訳そうと思っていました。「Unterm Rad」、「Klein und Wagner」を訳し、目標達成することが出来ました。また、ドイツ語検定や Goethe-Zertifikat の各々のレベルに合格することを目標にしてもいいかとも思います。

最後に、学習を続けようとする意欲を掻き立てるには、魅力ある先生との出会いもあります。もともとドイツが好きだった私ですが、神戸大学で池内治先生に教えていただいたことは大きな要因ですし、広島大学では、吉満たか子先生(NHK のテレビのドイツ語講座でおなじみですが)に出会ったことも、ドイツ語を生涯学習として続けようとする気持ちにさせてくれました。

今日、ドイツ語学習のための、様々な参考書が出版されており、学習方法も上達法も書かれています。しかし、「あなたは何を求めてドイツ語を学んでいるのですか?」、「あなたはドイツ語の学習にどれだけの時間を割けますか?」、「あなたはドイツ語のどのようなところを学びたいのですか?」、「あなたのドイツ語のレベルはどの程度ですか?」。それぞれ客観的に自らを分析し、自らの目的にあった学習法を見出すこと、これもまた楽しいことではありませんか。他の人に良かった学習方法が、私には向いていないということもあると思います。原点は、「私達は、ドイツ語人ではない。」ここにあると思います。

「下手の横好き」と言う言葉もありますが、でも好きであること、これが第一ではないでしょうか。

老いると覚えるより忘れることのほうが多く、学習は遅々として進みませんが、ドイツ語に対する愛情？思いは、十分にあります。「好きこそものの上手なれ。」

シリーズ「ドイツ、わが愛」

第2回 ドイツワインの有る風景

会員 足立 翔

2016年の夏、ドイツのライン河沿いを観光してきました。当初は知り合いを訪ねるためのフランクフルト滞在でした。ただ、会う日以外の数日ほど日程が余っていたので、計画を旅行本片手に考えていました。行程表を作っている時期の6月ごろ、丁度神戸日独協会で「ドイツワイン会」の企画が立ち上がったので、折角だからワインに関連する名所を巡ってみようと思いました。そこで、神戸日独協会の会員でもある、松田耕治氏(株式会社ドイツ商事/ローテ・ローゼ代表取締役社長)に助言を頂くためお店に何度も通い、観光がてら公共交通機関でも行きやすい場所を教えてくださいました。勧めて下さったのは、ライン河沿いの Bacharach という町にある Weingut Toni Jost です。早速辞書片手に、ホームページから問い合わせしてみると、運良く旅行期間中に1日だけワインの試飲と販売を開催していると連絡を受けました。開店時間がお昼過ぎだったので同日の午前中は Rudesheim am Rhein の観光、別の日には Eltville にある国立ワイン醸造所 Kloster Eberbach を予定に組みました。この旅行で印象深かったのはこの3ヶ所です。

8月になりドイツへ出発、ドイツにライン川下りをするためフランクフルトを朝8時ごろに出発。電車で1時間かからず Rudesheim am Rhein に到着しました。ここで山と川、そして葡萄畑を眺めながらロープウェイに乗って山頂まで行き素晴らしい景色を楽しみました。鉄道駅の近くのお城の中はワイン博物館になっていて、年代ごとのワイングラスとその歴史、工業化以前の農具などを音声ガイド付きで見られてとても充実していました。KD 定期観光船ではタイミング良く外輪蒸気船ゲーテ号に乗ることができ、のんびりとしたクルーズを満喫しました。船上から、川沿いにキャンピングカーを停めて休暇を楽しんでいる人たちや、自転車サイクリング、バイクツーリングをしている旅行者もちらほら見かけることができました。

Bacharach に到着し、お店に入るとすでにお客さんが一人、ノート片手に試飲しながらご主人の Peterさんと話し合っていました。僕にはご夫人の Linde Jostさんが接客してくださり、初心者ながら赤白ワインの生産割合や、対岸で管理している畑にはどうやって行くのかとか話をしました。ワイン数種類を試飲し、お酒もまわってだんだんと味がわからなくなってきたので、一番飲みやすいと思った1本を購入しました。旅行しながら持ち運ぶにはとても重たくて、Bacharachにあるお城まで山登りする時や、帰宅途中も瓶が割れないように気をつけないといけないので、ホテルに着く頃にはクタクタになってしまいました。日本で買った時にいいお値段するのも頷けます。帰りの空港でお土産を買った時でさえ、手間賃をもらってもいいんじゃないか！？と思うくらい重労働でした。

翌日、Eltvilleまで鉄道で行き街中を観光した後、バスで Kloster Eberbach に訪れました。地球の歩き方に観光地図が載ってなかったのととりあえず川沿いにある Electoral Castle に行きま

した。城内の庭がとても綺麗で時間を忘れて鑑賞していました。また、城内に構えるお店の前に市内観光案内の無料冊子が置いてあったので入手。Kloster Eberbach 行きのバスが1時間に2本程しか無く、お城からバス停のある鉄道駅前に戻ったらちょうどバスが出発したので、次の出発時間まで冊子片手に散歩していました。

Kloster Eberbach は山の中にある修道院で、とても大きな建物のなかにワインの倉庫やかつて使用していた巨大な葡萄圧搾機が何台も置いてあったり、圧巻でした。ただ見ているだけで無く、前日にワイン博物館で得た知識が生きていたのが嬉しかったです。

この旅行のライン川沿いの観光では今まで全く意識していなかった、ドイツワインと葡萄をテーマにしましたが、松田さんそして神戸日独協会の会員の方々に事前に話を聞いていなかったら、ワイン博物館での展示物や各地の些細な風景に感銘を受けることはなかったと思います。おかげさまで、充実した旅行になったことに本当に感謝しています。

ハンブルクレポート

Nr.2 2つのお祭りと1つのイベント

会員 北村 美里

皆さまこんにちは！夏の気配が近づいてきたハンブルクより、今回は5月に開催された2つのお祭りと1つのイベントをご紹介します。

1つめのお祭りは、5日から7日までの3日間行われた Hafengeburtstag (ハーフェンゲブルツターク)、開港を祝うお祭りです。様々な船が集まるこのお祭り、岸には外国からやってきた船や税関の船などが立ち並び、川を進む伝統的な船や観光船なども見られました。中には決まった時間に見学できる船も。私が訪れた7日は海難救助の実演も行われ、消火活動やヘリコプターの出動といった救助プロセスに、川岸を歩く人々も見入っていました。川沿いの道では大きなライブステージやたくさんの屋台が出ていて、こちらも賑やか。私もドイツでもおなじみのトウモロコシを買ってみましたよ。醤油の香ばしさを懐かしく思いつつ塩バターをおいしくいただきました。

2つめのお祭りは、Kirschblütenfest (キルシュブリューテンフェスト) という日本のお祭りです。桜祭りと言う名前ですが5月に開催されます。19日にはアルスター湖で花火の打ち上げ、20日には Japan Festival がありました。また21日には桜の女王が選ばれました。

19日は同日に開催された Japandom feiert Kirschblüte というイベントへ。雑貨やお茶の出店ブースを見て回り、コンサートの心地よい音楽を楽しみました。中でも私の目を引いたのが、WAKIYA さん。ふろしきの美しさだけでなく、かばんなどの実用例でその幅広い可能性にも触れられるブースでした。お話を伺ったところ、ふろしきの魅力を伝えるべくウェブショップとイベント出店をされているそう。こうして活躍されている方とお話すると、自分も頑張ろうというパワーをもらえて嬉しくなります。折々このようなイベントに出会えて、日本文化をまた違った感覚で味わえるのもハンブルク生活の魅力のひとつですね。

20日は Japan Festival へ！こちらは Pflanzen un Blumen で開催されました。おにぎりやお菓子など食べ物の販売、書道や折り紙・工作、おもちゃ遊び、5月末から始まる日本映画祭のインフォ

メーションなど、日本関連の様々なブースが出ていました。鯉のぼりの飾りや藤の花なども楽しみながら見て回りました。三味線の演奏や居合道、剣道の実演も見ることができましたよ。小さな庭園が大勢の人で賑わったイベントでした。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。次回の実行委員会は6月18日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。発送予定日は7月13日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
6月17日(土) 14:00~	第163回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
6月17日(土) 13:30~	日独若者の「神戸再発見」 第41回舞子公園と五色塚古墳	舞子公園と 五色塚古墳	6月14日(水)まで
6月18日(日) 15:00~	神戸日独協会 実行委員会	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
6月25日(日) 14:00~	ドイツ人研修生との交流会	神戸日独協会 会議室(19階)	6月21日(水)まで
7月8日(土) 14:00~	「ドイツワインの会」 第5回「目でも楽しむワイン」	神戸日独協会 会議室(19階)	7月3日(月)まで